

大阪市立加美中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 本校の現状と課題

- ・ 日々の教育活動において、指導法の研究・工夫・改善に取り組んだ結果、生徒の学習に対する取り組み姿勢に良好な変化が見られる。様々な取り組みに対する変化はみられるが、全国学力・学習状況調査や英語能力判定テストなどにおいて、学力の向上を示す大きな数値変化は見られない。
- ・ 日々の教育活動の様々な場面で「互いを思いやる心の育成」を計画的・継続的に実践してきた。結果として、全ての学校行事において、生徒が協力し合う姿が發揮され、秩序ある集団活動ができるつつある。しかし、集団に馴染めない一部の生徒の指導と育成が課題である。
- ・ 特別支援教育担当者、特別支援教育委員会を中心に全教職員が、一人ひとりを大切にしたきめ細やかな指導と支援を行い、個に応じた対応が拡充している。

2 学校運営の中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の校内調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- 令和 7 年度の校内調査において、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 78%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35%以上にする。
- 令和 7 年度までの中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 令和 7 年度の大坂市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 40%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査における「家でも学習している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 62%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査における「授業が分かりやすい」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を 35%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 52%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 77%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度の授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 55%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT が適さない日数を除く)
- 令和 7 年度の第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 85%以上(基準 2)にする。
- 年度末の校内調査における「読書が好きである」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 55%以上にする。

3 中期目標に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を **83%以上にする**。(令和5年度 82.8%)
- ・ 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の**改善の割合を増加させる**。(令和5年度 14.3%)
- ・ 年度末の校内調査における、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を **75%以上にする**。(令和5年度 72.7%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を **30%以上にする**。(令和5年度 24.9%)
- ・ 今年度の中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も**前年度より向上させる**。(令和5年度 1年国語 0.92・数学 1.02 2年国語 0.91・数学 1.07)
- ・ 今年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を **38%以上にする**。(令和5年度 35.1%)
- ・ 年度末の校内調査における「家でも学習している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を **60%以上にする**。(令和5年度 57.6%)
- ・ 年度末の校内調査における「授業が分かりやすい」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を **30%以上にする**。(令和5年度 29.3%)
- ・ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を **50%以上にする**。(令和5年度 48.1%)
- ・ 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を **75%以上にする**。(令和5年度 65.0%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 今年度の授業日において、**生徒の8割以上**が学習者用端末を活用した日数が、**年間授業日の50%以上にする**。(ただし、事務局が定める学校行事等ICTが適さない日数を除く)
- ・ 今年度の第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を **83%以上(基準2)にする**。(令和5年度 80.6%)
- ・ 年度末の校内調査における「読書が好きである」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を **50%以上にする**。(令和5年度 48.5)

4 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 不登校の割合は目標数値に到達することができなかつたが、不登校傾向の生徒対応として図書室への登校「ひだまり教室」の開室を行うことで学習機会を設けた。
- ・ 道徳教育の向上として、校内での研究授業を行い、専門家の意見を取り入れることができた。
- ・ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合が 85.7%となり、目標を上回った。(令和 6 年度 目標 83%以上)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合は 37%に向上した。(令和 5 年度 24.9%)
- ・ 3 年生中学校チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、「数学 1.06」と目標を上回った。(令和 5 年度 数学 1.02)
- ・ 今年度の大都市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)は「78%」で昨年度を大きく上回った。(令和 5 年度 35.1%)
- ・ 「家でも学習している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合 68%、「授業が分かりやすい」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合 36%といずれも目標を達成し、学力向上に向けて良い兆しが見えた。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 心の天気の使用率は向上いるが、来年度は今年度以上にタブレットを使用した授業の推進を進めていきたい。
- ・ 今年度達成できなかつた教員の勤務時間の上限に関する基準の達成を目指して、業務と会議の精選を実践していく。
- ・ 「読書が好きである」と回答する生徒を増やすため、まず読書に親しむことから進めていきたい。

大阪市立加美中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 83%以上にする。(令和 5 年度 82.8%) 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(令和 5 年度 14.3%) 年度末の校内調査における、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 75%以上にする。(令和 5 年度 72.7%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめ・不登校対策委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の学校行事や委員会活動を行い、好ましい人間関係や信頼関係を確立できる集団づくりを行う。 毎日の「心の天気」や学期毎の「いじめ等アンケート」を通じて、個々の生徒の状況の把握に努め、いじめや問題行動の早期発見・早期解決に向けて取り組む。 不登校生徒や支援を要する生徒に対して、多様な学習機会や居場所を確保しながら、個別で適切な学びが提供できる体制の構築に努める。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 83%以上にする。(令和 5 年度 82.8%) 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(令和 5 年度 14.3%) 	
<p>取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 道徳教育推進担当</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間 35 時間の授業時間の確保及び授業内容の精査に努める。 教科書を有効に活用し、一人ひとりが自分自身の問題ととらえ、「考え方議論する道徳」の授業を充実させる。 	B
<p>指標</p> <p>年度末の校内調査において、「自分には、よいところがあるだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 75%以上にする。(令和 5 年度 72.7%)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 学期末までの「前年度不登校生徒の改善割合」は 10.5%となり、目標を下回る結果となった。 ・ 「ひだまり」を活用し、不登校生徒の学習機会を確保することができた。 ・ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は 85.7%となり、目標を上回る結果となった。
<p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「年間 35 時間の授業時間の確保及び授業内容の精査に努める」に関しては教材での授業だけでなく、企業(GU・ユニクロ)と連携した国際理解の講話や、車いすの体験など、豊かな心の育成に努めた。 ・ 教科書を有効に活用し、一人ひとりが自分自身の問題ととらえ、「考え方議論する道徳」の授業を充実させる。各授業者の取り組みを見ると、生徒が考えている・議論しあっている時間を意識的に確保しているように感じた。 ・ 校内調査のアンケートから「自分には、良いところがあると思いますか」では、全体で 77.7%となった。前年度より 5%上回る結果となった。生徒に寄り添う授業や指導をこれからも努める。
次年度への改善点
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校生徒や支援を要する生徒に対して、「ひだまり」や「通級」など、多様な学習機会や居場所を確保しながら、個別で適切な学びが提供できる体制の構築に努める。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状を維持しつつ、より良い道徳授業を行うために、教員間で授業見学を密にしたいと思います。

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する生徒の割合を 30%以上にする。(令和5年度 24.9%) 今年度の中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(令和5年度 1年国語0.92・数学1.02 2年国語0.91・数学1.07) 今年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を 38%以上にする。(令和5年度 35.1%) 年度末の校内調査における「家でも学習している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 60%以上にする。(令和5年度 57.6%) 年度末の校内調査における「授業が分かりやすい」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を 30%以上にする。(令和5年度 29.3%) 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 50%以上にする。(令和5年度 48.1%) 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 75%以上にする。(令和5年度 65.0%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 教育課程・学力向上委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教員が年1回以上の研究授業を行い、各教員の指導力向上を目指す。 各教科・総合的な学習の時間・特別活動を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組む。 学習習慣や学習内容の定着を図るために、宿題や提出物を計画的に課す。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する生徒の割合を 30%以上にする。(令和5年度 24.9%) 今年度の中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(令和5年度 1年国語0.92・数学1.02 2年国語0.91・数学1.07) 今年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を 38%以上にする。(令和5年度 35.1%) 年度末の校内調査における「家でも学習している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 60%以上にする。(令和5年度 57.6%) 年度末の校内調査における「授業が分かりやすい」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を 30%以上にする。(令和5年度 29.3%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 保健体育科</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の発達段階に応じた体力・運動能力の向上を図る。 生涯にわたって運動に親しむ習慣を身につけ、健康に対する意識を高める。 <p>指標 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 50%以上にする。(令和5年度 48.1%)</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 給食委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の食生活の内容を考えることで、健やかな体の育成をめざす。 生徒が規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康な学校生活を送ることができる環境を目指す。 <p>指標 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 75%以上にする。(令和5年度 65.0%)</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 30%以上にする。(令和 5 年度 24.9%)
→ 今年度の結果、「37%」(104/302 人)だった。肯定的な回答に広げると、85%(258/302 人)という結果となった。
- ・ 今年度の中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(令和 5 年度 1 年国語 0.92・数学 1.02 2 年国語 0.91・数学 1.07)
→ 今年度の結果、「3 年生国語 0.89・数学 1.06」だった。
- ・ 今年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 38%以上にする。(令和 5 年度 35.1%)
→ 今年度の結果、「78%」(73/94 人)だった。
- ・ 年度末の校内調査における「家でも学習している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 60%以上にする。(令和 5 年度 57.6%)
→ 今年度の結果、「68%」(206/302 人)だった。
- ・ 年度末の校内調査における「授業が分かりやすい」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を 30%以上にする。(令和 5 年度 29.3%)
→ 今年度の結果、「36%」(110/302 人)だった。

取組内容②

- ・ 各種目、生徒一人ひとりの発達段階に応じた取り組みを行い、楽しみながら運動能力を向上させることができた。
- ・ 学校アンケートにおける最も肯定的な回答の指標は 50%で今年度全学年では 52%の回答を得た。
- ・ 体育の授業だけでなく、保健の授業においても積極的にペアワークを行い、自発的に発言や、相手の意見に耳を傾け考える時間を多く設けることができた。
- ・ 基礎体力向上のため、準備運動を学年別に強度を調整、単元ごとに必要な技能、思考、判断力を高める運動を実施した。結果として、学年によって、新体力テストで全国平均を上回る結果を得ることができるなど、緩やかではあるが、体力は確実に向上している。
- ・ 全学年でスポーツ大会を計画し、2.3 年生は 1 学期に実施済みで、1 年生は年度末に実施予定である。

取組内容③

- ・ 1 年生において平野北中学校の栄養教諭による出前授業を行った。本校での残食の状況を知り、給食時のおかわりに積極的になる生徒が増えた。
- ・ 全校生徒において朝食をとる生徒は「毎日食べている、ほぼ毎日食べている」が合わせて 87.4%という結果になった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・ 今年度は、年度目標の基準を多くの項目で上回ることができた。それは、各学年や各学級、各授業担当に関わる全ての成果であると考えている。
- ・ 今年度は、日々の授業改善や研究授業、チャレンジテストや RST, 総合的読解力カリキュラムなどに精力的に取り組むことが学校全体で行うことができた。
- ・ 今年度の成果を受けて、次年度では、「生徒の意識へのアプローチと変化」を考えていきたい。
- ・ 生徒の資質能力向上に向けて、彼ら自身の、内発的な部分へのアプローチができるような学習や取り組みを開いていきたいと考えている。

取組内容②

- ・ コロナを終えてから 2 年が経過し、制限なく動けるようになったということもあり、全学年各種目におけるペアウォークなどでも積極的に楽しみながら体育の授業に取り組めていた。自発的に考え、能動的に行動できている。今後も継続し、体を動かす習慣を定着させられるように進めていく。

取組内容③

- ・ 各学年において年 1 回は栄養教諭による出前授業を設けることで、食に対する意識を高めたい。また、朝食の喫食率に関しては生徒のみならず保護者に対する啓発も行うほうが良いのではないか。

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の授業日において、<u>生徒の 8 割以上</u>が学習者用端末を活用した日数が、<u>年間授業日の 50%以上にする</u>。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT が適さない日数を除く) ・ 今年度の第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を <u>83%以上(基準 2)にする</u>。(令和 5 年度 80.6%) ・ 年度末の校内調査における「読書が好きである」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を <u>50%以上にする</u>。(令和 5 年度 48.5%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ICT担当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習端末の活用を促進するために、校内の環境整備を図り、各授業や学校行事等の様々な場面で活用機会を増やす。 ・ 学習端末持ち帰りによる課題の提出や家庭学習を推進する。 <p>指標 今年度の授業日において、<u>生徒の 8 割以上</u>が学習者用端末を活用した日数が、<u>年間授業日の 50%以上にする</u>。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT が適さない日数を除く)</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 管理職</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間会議数の減少と校務支援システムを利用した連絡事項のデータ化を推進する。 ・ 部活動支援員の配置による顧問の先生の業務負担軽減を図る。 ・ 各委員会と連携し、本校の課題解決に向けた校内研修を計画的に実施する。 <p>指標 今年度の第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を <u>83%以上(基準 2)にする</u>。(令和 5 年度 80.6%)</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 7 生涯学習の支援】 図書室担当</p> <p>言語活動の充実を図るため、図書室の学習環境の整備を行う。</p> <p>指標 年度末の校内調査における「読書が好きである」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を <u>50%以上にする</u>。(令和 5 年度 48.5%)</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①	<ul style="list-style-type: none"> 学習用端末の使用率は上半期と比べ、増加傾向にあると見られる。授業でもタブレットを使用する教科も増え、心の天気も登校時と下校時の2回の入力も習慣づけができている生徒も増えていった。また、Teamsについては各クラス毎にチームを作ることによって、アンケートや教科の連絡、日々の時間割などの管理などの活用があり、毎日タブレットを持ってきて活用する場面が見られた。
取組内容②	<ul style="list-style-type: none"> 会議数の精選が進んでおり、校務支援システムを利用した連絡は実践できている。 部活動指導員が顧問の業務を大きく軽減した。 今年度の第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を83%以上(基準2)にするでは72.73%と目標を達成することができなかった。
取組内容③	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度末の校内調査における「読書が好きである」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合は、59.3%であり、目標を達成できた。 昨年度の12月末時点における貸出数は768冊 全校生徒389人のため一人当たり平均2冊貸出 本年度の12月末時点における貸出数は768冊 全校生徒374人のため一人当たり平均2.1冊貸出
次年度への改善点	
取組内容①	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も引き続き心の天気の活用の活性化を進めるとともに、タブレットを使用した授業展開や授業の配信などを進めつつ、タブレットの管理や充電切れなどの問題に関しても対策していきたい。
取組内容②	<ul style="list-style-type: none"> 今年度達成できなかった教員の勤務時間の上限に関する基準の達成を目指して、業務と会議の精選を実践していく。
取組内容③	<ul style="list-style-type: none"> 読書に対する抵抗感を少しでも減らすための読書イベントを実施する。 来館をうながすための図書委員への働きかけをする。 保護者向けの図書室開放(文化発表会当日)などで、さらに来館者数・貸出数を増やす。 「読書が好きである」と回答する生徒を増やすため、まず読書に親しむことから進めていきたい。